



高橋幸世の世界

8

町出身・絵本作家



一九二三年老方に生まれる。長年児童図書の編集にたずさわりのち創作活動にはいる。文・絵・演技指導と幅広く活躍。「チロヌップのきつね」など数多くが海外でも出版。

絵本「まぼろしの大しか」

「民話」と一口でいっても、伝説・昔話・俚諺の総称であり、伝承民話と創作民話の別もある。創作民話は、伝承民話から種を借りて、自分なりの思想や感情を加味し、再創造したものというが、民話とは無関係に、いかにも民話らしく創作したものも含む。「まぼろしの大しか」は後者に属す。このようなストーリーをもつ民話は、どこにもないはずだ。全くの創作である。

秋田には「鹿」のついた地名が多い。私の胸の奥にも、いつのまにか鹿が棲みついていた。一獵師茂平の女房が赤児を産んだが、乳が一滴も出ない。孕んだ牝鹿の肝を撮ると乳が出るという聞き、孕みの牝鹿を追う。それを阻もうとする白い牡鹿との執念の対決――

子どもの感性とは距りがある主題かも知れないが、描かずにはいられなかったのだ。時には読者を意識外におくこともある。

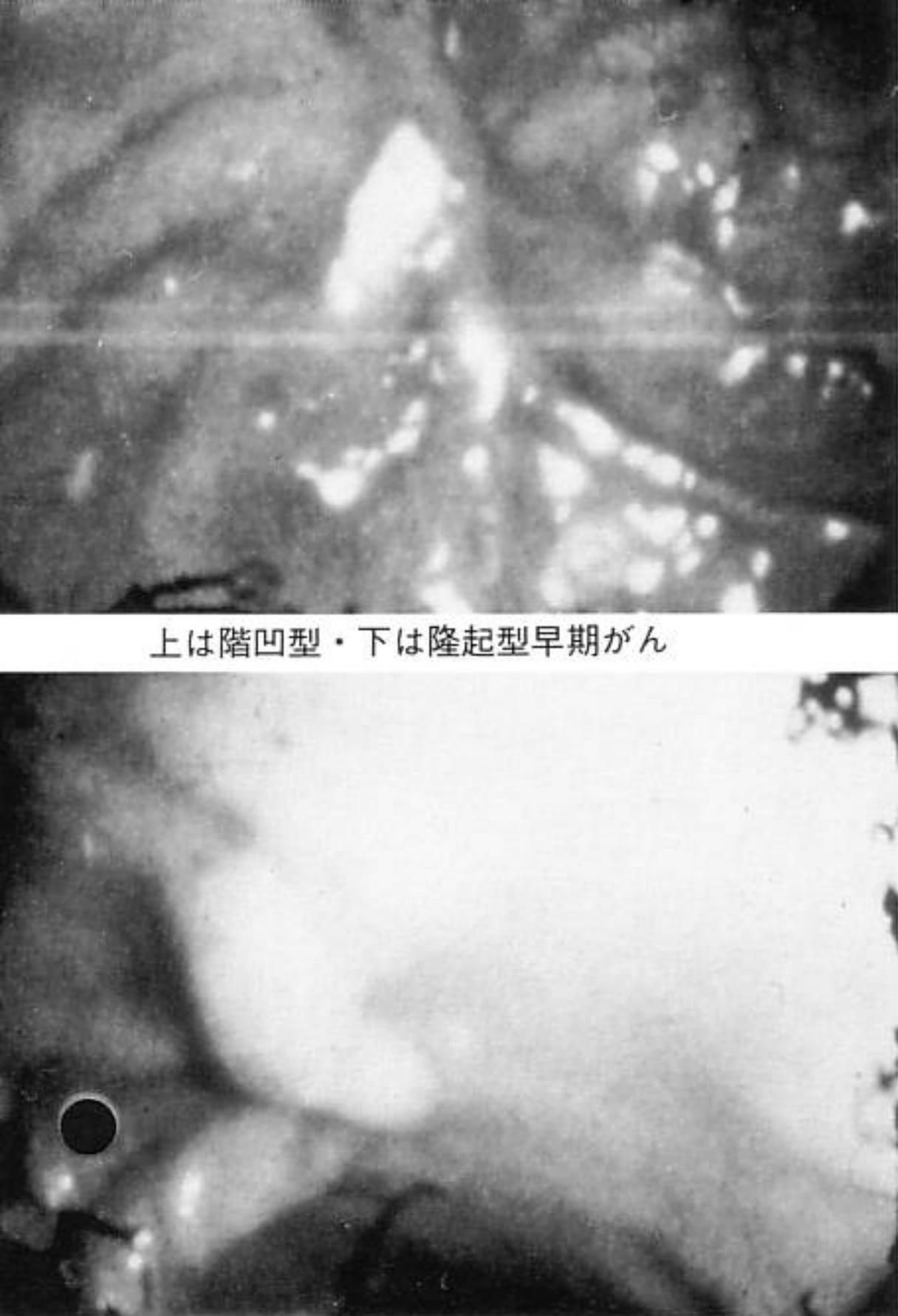
こんな内面も、民話を子守り唄として聞かせてくれた、母なる古里がはぐくんでくれたもの。私の場合、ほとんどが創作民話で、伝承そのものをなぞった作は一点しかない。次号はそれについて語る。(高橋・記)

検診を受けていない人ほど高い 胃がんの発見率！

表・1 発見がん患者の受診歴



※秋田県成人病予防協会が過去5年間に実施した検診で発見されたがん患者の受診状況 () 内は早期がんの数



上は階凹型・下は隆起型早期がん

わたしたち日本人が、何の病気でも一番多く亡くなっているか知ってますか。実は、「がん」なんです。このがんの中でも「胃がん」がトップです。でも、胃がんは早く見つけられれば、ほとんどが治ります。要するに「生か死か」が、この「早期発見」にかかっているのです。表・1は、過去五年間のうちで胃の集団検診で発見されたがん患者数です（県成人病予防協会調べ）。この表でもわかるように、検診を続けて受けている人ほど発見率が低くなっており、当然のことのように「初めて検診を受けた」人の発見率が一番高くなっています。ということは、検診を受けない人には、もっと多くがん患者がいるかも知れないということです。あなたは検診を受けていますか。

精密検査で 8人にがん発見

表・1から、がんの発見率は検診を続けている人ほど低いということがわかりますが、しかし、ここで問題となるのは「精密検査が必要ですよ」という検査結果にもかかわらず、精密検査を受けない人がいるということです。ちょっと驚きですが、昭和六十三年はこんな人が五十四人もいました。（表・2）

なぜ精密検査を受けないのだろう

過去に、町の保健婦が「精密検査を受けない人」を追跡調査したところ、多い順に、①体の調子もいらい元気だから ②忙しくて行かなかった ③胃カメラが嫌で……などの理由が上げられています。でも、がんの疑い

胃がん検診で一命を

町内五十代の主婦・匿名

昭和五十九年……私にとっては生涯忘れることのできない年です。

胃の検診を受けたのも忘れていたところ、地区の愛育班員から、胃の検診結果通知が届きました。通知には「検診結果に異常がありました。すぐに病院で精密検査を受けてください」と書かれてあったのです。その時の驚きとショックは、今も鮮明に覚えています。

翌日、私は精密検査を受けました。検査結果がはっきりするのは一週間後とのこと。この一週間は地獄でした。無知な私は、「がんで死ぬかも知れない」などと、悪いことばかりを考え、何も手につかず、家族を思い出しては涙を流し、絶望の毎日でした。一週間後、主人に伴われて病院へ行ったら、先生は「極めて初期のがんなので、速やかに手術すれば一〇〇％は治ります」と……。私には、とて



健康だから胃の検診を受けるんです

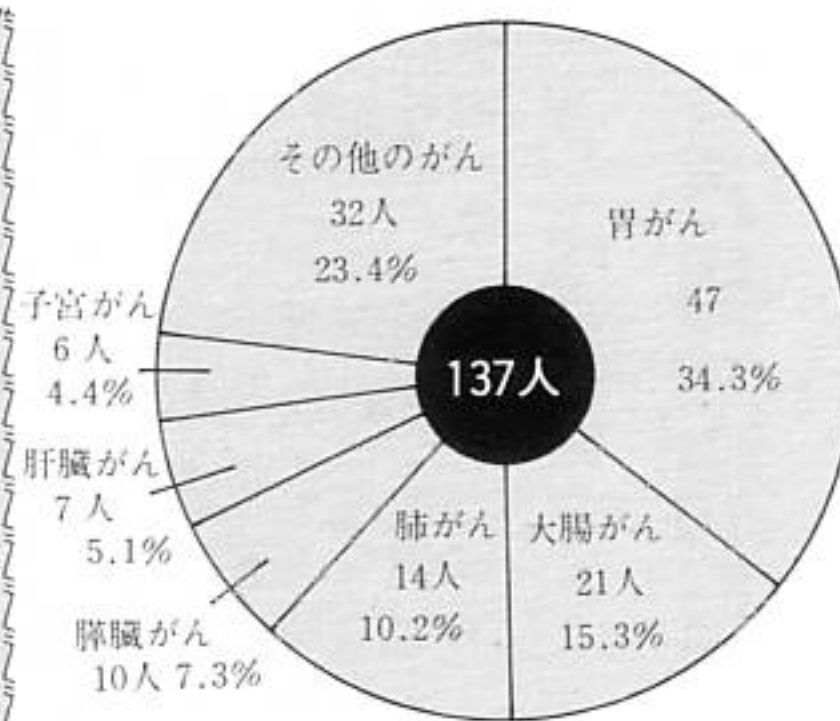
本荘第一病院院長 小松寛治氏

胃がんは知らない間に芽を出して、胃の中でゆっくりと成長してゆきます。そして大豆やトマトがつい先日かわいい芽を出していたのに、気がついたらもう、こんな

に大きくなっていたのかとびっくりすることがあるように、毎日、毎日少しずつ休まないで成長してゆきます。だから、どんなに健康な人でも胃の検診を毎年一回は受

けておかねばなりません。それも出来るならばカメラをやれば、芽を出したばかりの小さなものも見つかります。

しかし、種痘やツベルクリン、BCGなどの予防注射を全員受けたように、医学的には胃の検査もみんなが毎年受けなければならぬのです。がんは他人にうつる伝染病でないから、本人の自由にかかされていただけなのです。

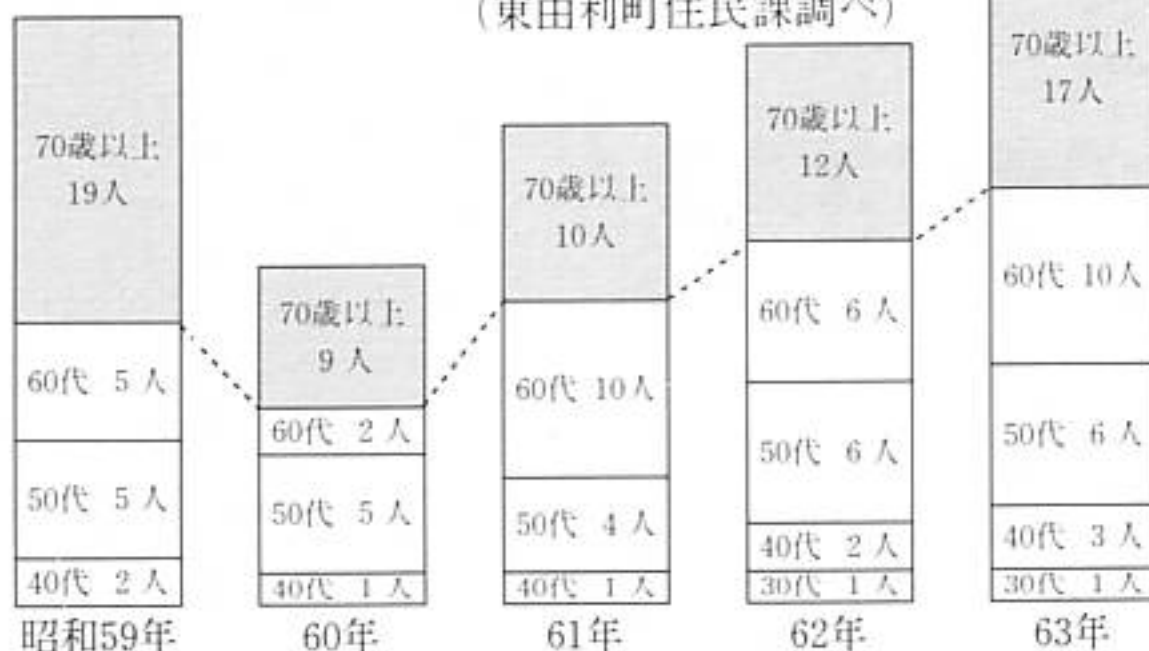


表・3で示したように、過去五年間（昭和五十九年～六十二年）で、がんにかかった町民は百三十七人です。そして、やはり胃がんが四十七人でトップを占めています。

表・4で表したように、過去

高齢者ほど高い胃がんの発生率

表・4 ガン発症の年代別状況 (東由利町住民課調べ)



特に、精密検査を指摘されながら、「行かない」人は、ぜひこの機会によく考え、「早期発見」の道を選ばれてみてはいかがでしょうか。

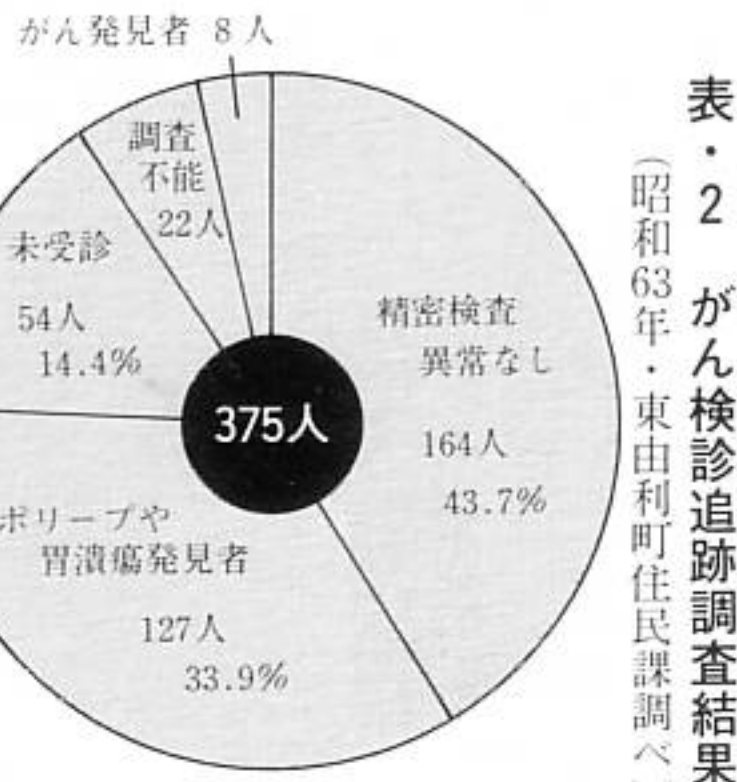
がんの治療に関しては、現在のところ日本が一番進んでいるといわれています。早期に発見されたがんは、実に九十八パーセントが治るそうです。ですから、胃がんという病気も、恐れる必要はないわけです。でも、検診を受けないことには「早期発見」はできません。

“早期発見”ががん治療の道標

ため、いかにして受けない人に受けていただくかがポイントとなっています。つまり、がんにかかりやすい高齢者を、いかにして検診に参加させていくかが課題ではないでしょうか。

このようなこともあって、今は検診を進んで受けています。皆さんも、もっと自分から進んで検診を受けてみることを、経験からお勧めします。

も信じられませんでした。それから手術までの間は、生きた心地がしませんでした。手術後、傷の痛みは和らぐことができましたが、心の痛みは和らぐず、見舞いにみえた方や心配してくれる家族、先生に失礼な態度をとってしまった。ある日先生が、「検診で病気を見つけたあなたは幸せです。検診に感謝しなければ」と申されました。私はこの言葉で目がさめました。不治の病であるがんも、早期に発見して治療すれば、決して怖いものでないことに気づいたのです。それから検診に感謝し、治療に専念。現在健康に暮らしています。



表・3 がん発症の部位別状況 (昭和59年～63年・東由利町住民課調べ)

(昭和59年～63年・東由利町住民課調べ)

表・2 がん検診追跡調査結果 (昭和63年・東由利町住民課調べ)

今年の町功労者に長谷山喜市郎氏決まる

11月3日有鄰館で表彰式

今年の町功労者に、元町議会議員の長谷山喜市郎氏が決まりました。

長谷山氏は10月11日に行われた表彰者選考委員会で選ばれたもので、表彰式は11月3日午前11時から有鄰館で行われます。

長谷山喜市郎氏

老方字老方五五番地
七五歳・商業



長谷山氏は昭和三十九年東由利村議会議員に初当選して以来、同五十九年まで五期二十年にわたりその要職を担われました。この間、産業経済・建設各常任委員長、総務・教育民生各副委員長を努められたほか、昭和四十七年から現在まで通算十年間にわたり町監査委員、昭和三十六年から三十九年まで村選挙管理委員を努められるなど、町議会の円滑な運営と、町政の伸張発展、民生向上などに大きく貢献されています。

また、現在は町身体障害者協会会長、町社会福祉協議会監事、町傷痍軍人連絡協議会会長、英霊にこたえる会秋田県本部理事、軍恩連盟全国連合会常任理事など数々の役員の要職を努められ、社会福祉の増進に寄与されています。町功労者としての受賞にあたり長谷山氏は、「とても光栄です。町功労者の名に恥じないよう、これまでの経験を生かし、これからも一生懸命がんばります」と話しています。

老方郵便局長に長谷山さん就任

老方郵便局の小野厚局長（60歳・寺田）がこのほど退職なされ、替って由利郵便局（由利町）で局長をしてこられた長谷山博昭さん（50歳・上通）が新しい局長に就任なされました。

小野さんは昭和二十二年から老方郵便局に勤務され同六十

年に局長に就任、これまで円滑な郵便業務に携わってこられました。長い間ご苦勞様でした。新局長の長谷山さんは、元玉米郵便局長として、また町体育指導委員長としても馴染みの深い方です。どうぞよろしく願います。



小野 厚前局長



長谷山博昭新局長

「ビビットツアー オムニバス'90」の参加者募集！

町では町青少年団体連絡協議会などと協賛し「ビビットツアー オムニバス'90」を開催します。「魅力ある町に学ぶ若者のアクションとは」をテーマに、十一月二十三日（金）から二十五日（日）までバスによる現地研修（仙台市方面）を行うものです。

主な内容は、現地青年との情報交換、交流パーティ、はつらつ実業家訪問、シティウオッチング、仙台グルメナイトなど盛りだくさん。自由行動の時間をたっぷり組み込んだ、ビビット（活発）なツアーバスです。定員は三十人まで。町内在住の青年であれば性別を問わず、だれでも参加でき、参加費も男五千円、女三千円と激安です。参加希望者は町公民館（☎六九一二二二一）または町役場産業経済課（☎六九一二二一〇）に、十一月十三日（土）までご連絡をお願いします。

新「し尿処理施設」完成

本荘由利地区広域市町村圏組合が、本荘市二十六木字鎌田野の同広域清掃センター内に建設していた新しい「し尿処理施設」がこのほど完成しました。

同施設は、旧施設の老朽化や、簡易水洗トイレの普及など生活様式の変化などで増加する搬入量に対応するため、昭和六十三年から建設が進められてきたもので、一日当たり百基の処理能力を持ち、本荘由利圏域の約十二万八千人のし尿処理が可能となっています。

総事業費は約十四億五千万円で、鉄筋コンクリートの管理棟、処理棟、受入棟など延べ面積は計約四千平方メートル。処理施設は高負荷脱窒素処理方式を採用入れ、集中監視システムで高処理するもので、公害防止対策にも配慮されています。



完成した新しい「し尿処理施設」

九月十六日有鄰館で「山村に生きる農業シンポジウム」が開かれ、その中の「フォーラム」の様を前号で紹介しました。今号では、この日午前中に行われた、秋田県農協五連会長・佐藤秀一氏の基調講演を要約してご紹介します。

まず、いま最大の問題である米の輸入自由化について私の考えを申し上げます。

日本の米は、先祖伝来文化の源泉であり、集落的な支えであり、主食であることに変わりはありません。そして今は農業そのものよりも、環境汚染という問題から農業をどうとらえていくか、ということが重要な課題になってきており、日本の国土、地形からしても米は絶対に自由化してはならないと考えます。

政府や各政党党首も、公明党を除き国会論議に基づいて絶対に自由化する考えはないことを明らかにしています。ただ、政府は国の世論が分かれることを懸念しており、その解消のためにも日本の稲作の位置付けをきちんとし、それを皆さんが意志



基調講演する佐藤秀一氏

統一をし再確認し合うことが必要だと思っています。

戦後、食糧増産、土地の生産性の向上、基盤整備、農村環境の整備などを重点に順次歩んできましたが、これまでの農村政策は、すべて経済を優先してきたような気がします。これから、自然のままのものを生かし

要 基調講演 旨

新しい農業時代の戦略

秋田県農協五連会長 佐藤 秀一氏

ながら、どうそれを利用し、価値を付け、本物を作り出していくかということに生産の基盤をおく必要があるかと思っています。自然の美しさを残しながら、その中で多少の不効率があっても、価値のあるものでカバーするような農業のしくみを、われわれの手でどう築き上げていくかが、これからの新しいムラづくりの第一歩だろうと思います。

二つほど提言します。一つは安全ということです。環境の安全、食べ物の安全性から言っ

も農業は残さなければなりません。したがって、外国からの輸入農産物に対抗していくために、価格では到底競争できないとするならば、やはり安全性を訴える農業をやらなければならぬのではないのでしょうか。まさに、量の時代から質の時代、質の時代から安全性の時代へと変わってきており、その中で価値観を高めていくということにならなければいけないと思います。

もう一つは、「安らぎの里」でなければいけない。やはり、生きがいを感じるようなムラを作らなければいけないと思います。必ずしも立派なものを建て、施設をよくしていくことが真の安らぎではないと思います。それぞれの集落が、昔ながらの場を残しておくというのも、安らぎの一つの核になるのではないのでしょうか。

どうか皆さん、それぞれの集落、ムラの中で、昔ながらの行事を大切にし、ムラこそのお祭りのようなものが、日常に取り入れられるような方向づけを研究してみたいかがでしょうか。



300人を超す農家が佐藤氏の講演を聴講

なぜ皆が米を作りたがるのか

えます。

……それはやはり、機械化になり肉体的にも楽で、時間がかからないことです。しかしわが身を振り返ると、金のかかる産業です。私の試算だと、稲作の経費は五十一万ほどと考えています。ですから、小規模ならばそれなりに労働力を集約し、コストを下げるための方向転換が必要だと思っています。少々金がかかっても楽だから……ということでは農業は成り立たないと思います。

私は、東由利町が将来ともに米と畜産を基幹産業にしていることをうれしく思います。なぜならば、作物の基本は堆肥であり、科学が発達しても自然の摂理に勝るものはないことを、これまでハウス栽培での連作障害などから実感したからです。

そのことを念頭におき、由利郡一の畜産地帯であるこの東由利町は、これから素晴らしい日本一の良質の農産物を出しうる基盤が整っていることを自覚しなければいけないと思います。牛を売るだけ、ということではなく、その波及効果として将来に向けての基盤ができたということ、自ら自覚し、その上に何をとり入れるか、ということ、これから皆さんがよく考えてほしいと思います。

カメラトピックス

町のわだい



健康増進センター駐車場隣接地に佐藤さんの善意で作られた「芍薬園」

佐藤さんの善意で「芍薬園」設置

町健康増進センター駐車場の隣接地、約300平方メートルの空き地に、このほど250株余りの芍薬が植えられ「芍薬園」と名付けられました。実は、この芍薬は雄勝町の小野芍薬園産で、中通の佐藤要次さんが寄贈したものです。「信濃の春」「サラベナール」「富士」など、種類は28種で、縦12メートル、横25メートルの園内に幅1.5メートルのクランク状の通路を設置。来春にはきれいな花が見られそうです。



公開授業に登場した実物大のたて穴式住居

交通安全 東由利町民大会

八塩小鼓笛隊を先頭に役場前から健康増進センターまでパレード



みんなで広げよう「無事故の輪」

●交通安全町民大会開催●

九月二十七日、恒例の交通安全町民大会が健康増進センターで開かれました。

大会に先立ち役場前から会場まで、八塩小鼓笛隊を先頭に八十人余りがパレードを行い、交通安全を呼び掛けました。

大会には約百五十人が参加、下通子供会など四団体に感謝状が贈られ、あいさつに続き小・中学生四人が交通安全を訴えた作文を、児童生徒代表など四人が「誓いのことば」を述べました。このあと参加者全員で、◎飲酒運転徹底追放◎シートベルト・ヘルメットの着用◎スピード抑止などを宣言し、閉会しました。

「はたちの思い出にボランティア

今年成人を迎えた町内の若者たちが九月三十日、東光苑で施設内の掃除などボランティア活動を行いました。

これは「はたちの思い出に自分たちの心に残る活動」と町公民館の協力で行ったもので、参加した新成人は男四、女六の十人。この日午前九時過ぎに東光苑に集合し、森川苑長から説明を受けたあと苑内の清掃やシート交換を行いました。午後は入所者を車イスに乗せ、畜産広場（西山）まで散歩。はじめ、もの静かさのあった新成人たちでしたが、途中、歩きながらに会話が飛び出し、施設に戻るまでには温かい心のふれ合いが生まれていました。



入所者と散歩に出掛ける新成人。帰るころには温かい心のふれ合いが...

ユニークな授業で公開研究会

「東由利地区公開研究会」が十月二日大琴小学校で開かれ、公開授業や分科会・全体会に教師やPTA会員ら百人余りが参加しました。

公開授業では、各学年担任の先生が創意工夫を凝らした授業を披露、その中でも児童が手造りのおみこしを担いだり（二年生）、学校農園の一角に実物大のたて穴式住居を造るなどして縄文時代の生活を再現した（六年）ユニークな授業が参加者の関心を集めました。

午後は同研究会としては異例のPTA会員による分科会・全体会を開催、「研修するPTA活動はどうあればよいか」について活発に意見を交わし合いました。

「家庭の日」の絵画、メッセージで三人が知事表彰

「家庭の日」運動二十五周年を記念し県が募集した「絵画」及び「ふれあいメッセージ」で、

絵画で八塩小五年の小松里理さんが優秀賞、メッセージで大琴小一年の小野望さんが最優秀賞、そして望さんのお母さんの一子さん（宿）が優秀賞を受賞し、十月十二日秋田市で開かれた家庭の日推進フォーラムの席上、県知事から表彰されました。

絵画は「わたしの未来の家庭」をテーマに、メッセージは「子どもからおとなへ、おとなから子どもへ」をテーマ（四百字）に描いたもので、入賞作品は今後の「家庭の日」運動に活用さ



知事表彰を受賞した小松里理さん（右）、小野望さん（中）、小野一子さん（左）

れることになっています。

大琴小女子が薄氷の勝利

郡市小学校卓球大会（10月7～8日・本荘北中会場）で、大琴小女子Aチームが、昨年に続き2年連続二度目の優勝を飾りました。また、女子個人戦では大庭志穂子さん（6年）が4試合を勝ち抜き見事チャンピオンの座に輝きました。大会の成績を載せた同校「卓球だより」では、個人・団体ともに奮闘した志穂子さんと、2対2で迎えた団体決勝戦で、見事に白星を飾った佐々木広子さん（6年）の活躍ぶりを紹介するとともに、「笹子小戦はもちろん、3回戦、決勝戦も組み合わせのまずさから薄氷の勝利でした。父母の大声援に感謝します」と報じていました。



郡市小学校卓球大会で2年連続優勝を果たした大琴小女子チーム

防犯連絡員の石綿さん 県警本部長表彰を受賞

本町の防犯連絡員、石綿国雄さん（大琴・五三歳）が、このほど秋田県警察本部長から表彰されました。

石綿さんは昭和四十八年から現在まで十七年にわたり、警察官と協力し、青少年の健全育成活動などを積極的に推進、地域の防犯意識の高揚、犯罪発生のもたら防止に貢献しています。

今後とも犯罪のない明るい町づくりのためにご活躍くださるようお願いいたします。

町長随想

玉米会館の竣工により、わが町のコミュニティ施設の建設が全部終了した。旧小学校区単位に、その中心集落に、それぞれの地域活動の拠点となる施設の建設を終えたことになる。

かつて小学校単位に地域文化が育まれ、明治以来小学校が地域文化の拠点だった。小学校を中心に地域文化が継承され、戦前・戦中・戦後の時代を終えて日本の近代文明がひらけたわけだが、わが町の

「玉米会館」の竣工を喜ぶ

それぞれの地域をみると、これを裏付けるように、いまなお、それぞれの地域の特色が生き続けている。いま流で言うところ、地域コミュニティの結果であろう。「これからも、この地域コミュニティを大

事に、大切にしていきたい」、その考え方から、それぞれの地域コミュニティ施設を建設してきたものである。その最後の建設が、旧玉米小学校区であり、旧玉米村役場所在地の集落であった館合に建

てた「玉米会館」である。

戦後、町村合併が行われ、その後小・中学校の統合が進み、学区の再編などにより地域文化の拠点とされた小学校がなくなり、それと近代文化の発展とともに、心

なしか地域の特色、特性が失われてきたように思われてならない。でも、このような中で、地域の生活文化を守りたいという地域意識、住民意識も強くなってきたのも事実で、これらのことを考えるとコ

ミュニティ施設の持つ役割と意義が大変大きいと言える。

かつての玉米村の中心に、その施設の建設が一番最後になってしまいい、申しわけなく、また気がかりだったのだが、これも地域の事

情があつてのことで、致し方のないことであつた。しかし、よい環境の場所に、一番立派な施設が出来たことを喜んでおり、特に用地の提供などでご協力をいただいた地元の方々に、心からの感謝と敬

意を表したい。やがては、その御厚意が地域文化の発展に大きく寄与されることであろうと思われる。さて、私も玉米村出身。玉米高等小学校卒業。町村合併後、旧村意識がだんだん薄れてきたのは、一面よいことだが、ただし「玉米」という名称は、何らかの形で末長く残したいと思っていた。このたび、施設の名称として「玉米会館」という名を、地域の方々によって名付けられたことは、設立の主旨からも非常にピッタリと考え、喜んでい

（町長 畠山亮二郎）

お年寄りや子供を火災から守ろう

十一月から三月にかけては、一年のうちで最も火災の多い季節です。

今年も十一月四日(土)から十一日(日)まで、「まず消そう 火への鈍感 無関心」を統一標語に、秋の火災予防運動が行われます。

六分間に一件の割合で 死亡原因の約三割が 火災発生 「逃げ遅れ」

約五万六千件——これが平成元年中に全国で発生した火災の件数です。時間にすると、ほぼ六分間に一件の割合で火災が起こっていることになります。

また、火災による死者は、千七百四十七人で、一日当たり五人もの尊い生命が失われたことになります。

死亡原因の約三割が 「逃げ遅れ」

火災で亡くなる人の三人に一人は、「逃げ遅れ」によるものですが、「逃げ遅れ」の原因としては、次のようなことが考えられます。

▼火災に気付いたときには火炎にまかれ、逃げ道がなかったか、まったく気付かなかったか、判断力に欠けていた(泥酔

など)か、あるいは体力的な条件が悪かった(病気など)

▼火の回りが早く、ほとんど避難できなかった

▼逃げれば逃げられたが、逃げる機会を失った(消火しようとしていて煙に巻かれるなど)

▼避難行動に入っていたが、逃げ切れなかった

こうした「逃げ遅れ」を防ぐには、何よりも早く火災に気付くことです。とはいえ、火災はわたしたちが目覚めているときばかり起こるとは限りません。事実、焼死する事故が多いのは寝ている間の午前一時ごろから明け方四時ごろにかけてです。

そこで、火災の「見張り番」ともいえる「火災報知機」を取り付けるのも一つの方法です。

死傷者は 幼児とお年寄りが多い

放火自殺者を除いた火災による死傷者を年齢別の割合で見ると、六十五歳以上のお年寄りとお年寄りが高い割合を示しています。

お年寄りの場合は、寝たばこの不始末から就寝中に寝具に火が燃え移り、煙に巻かれるケースや、一人でたき火をしていて

着物に火がつき、体が不自由なために消すことができなかったなど、悲惨な例がみられます。

一方、幼児の場合は、親の留守中に火災が発生し、逃げ出せなかったなどの痛ましいケースが報告されています。

お年寄りや子供、体の不自由な人、病人を火災から守るためには、家族はもちろん隣近所の援助や協力が大切です。

幼児やお年寄りだけを残して外出するのは、できるだけ避けたいものです。やむを得ない場合は、必ず隣近所に一声かけて出かけるようにしましょう。

119番通報の心得

十一月九日は、「一一九番の日」です。

「一一九番」に火災発生を通報するとき、場所や状況を正確に伝えることはなかなか難しいものです。しかし、消火活動は一刻を争います。通報が遅かったり、場所の説明が適切でなかったりしたために消防車の到着が遅れ、被害が大きくなった例も少なくありません。

「一一九番」は、落ち着いて正確に――。

ゆとりある生活： 考えてみませんか

元来、日本人は、忙しいことが美德という意識がありました。これが、日本人の勤勉性につながっているといえます。日本が経済大国となり、賃金もほぼ欧米主要国並の水準に達したのも、こうした背景があるからだといわれています。しかし、経済大国になったにもかかわらず、年間労働時間は、それほど短縮されていません。欧米諸国に比べると、いまだに年間で二百―五百時間も長いのです。これが、生活の豊かさを実感できない原因の一つになっています。

これからの時代 大切なのは メリハリの生活



単に長い時間働けばよいという時代は終わりました。これからは、働くときは一生懸命に働き、休むときはゆとり休むという、メリハリのあつた生活が大切になる時代です。十一月は、「ゆとり創造月間」です。この機会に、「ゆとりある生活とは何か」を考えてみませんか。

これはラジオ放送「FMあきた」の「トーク&トーク」という番組で昨年放送されたもので、五回シリーズで掲載しています。(今回で完)

「活性現象」起こる

◆東由利町が、企業誘致で「信英グループ」と交渉し、それが決まったら、操業開始まで、どのくらいの期間がかかっているものですか。

◆それが短いですよ。

畠山亮二郎さんが町長に就任したのが、昭和五十八年の八月なんですね。「信英グループ」との交渉が十月ですから、町長就任後、二ヵ月で始まった大仕事だったわけですね。

そして「信英グループ」が東由利町に進出を決めたのが、五十九年二月、「秋田信英」(株)として操業開始したのが八月、秋田信英第二工場の操業開始が六十年八月と、そのテンポは実に早いんです。

◆すごいテンポですね。

◆私もびっくりしました。それだけ集中したということでしょうね。

◆で、その効果は現れているんですか。

◆もちろん、町を大きく変えているんですよ。

朝、自転車や車でこの会社に通

う人は百八十人。まさに、雇用の創出です。かつて、毎年、七百二十人もの「出稼ぎ」のあったこの町が、今は、四百八十人に減っているんです。

「出稼ぎ」が減るということは、町に若者が住むということでしょう。その効果は絶大ですよ。

◆就業率がよくなったんですね。

◆良くなったというもののじゃないですよ。かつて東由利町は就業率の低い町だったんです。それが今や全県上位になったんです。

◆うわあ、そんなに変わるものですか。すごい変わりようですね。

◆ですから、町が明るくなってきた。自信みたいなものをもってきているんですね。

今はやりの「活性現象」ですよ。

年間三億円の「財テク」



秋田信英(株)

秋田信英(株)の進出が町を変えているという事です。町長が狙った「農業プラス月給(サラリー)イコール豊かな農村生活」という図式が図に当

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

ジャーナリストから見た東由利シリーズ5 企業が町を活性化に

フリージャーナリスト 石川 嘉明

おそらく、専業農家で五町歩、田んぼを持っている人より、暮らしは楽かも知れないってね。

◆ということは「信英グループ」の進出が町を変えているという事です。

◆そうです。町長が狙った「農業プラス月給(サラリー)イコール豊かな農村生活」という図式が図に当

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

たったということですよ。ですから、その町が活性化しているかどうかを見る指標の一つは、その町の「二種兼業」がどうい「カーブ」を描いているか、それを見れば分かるということにもなるんですね。「カーブ」が上がるといことは、就労の場が増えているということになりますからね。

都市と町村

◆東由利町の場合を見て来ましたが、総括しますとどういこと

◆この場合は成功例ですが、企

業というのは「誘致」のラブコールを送ったから来るというものはありま

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

◆秋田県というところは、八市ありますよ。この八つの都市を取り囲むように、町村が広がって

いるでしょう。この都市と周辺町村の距離は、車ならすべて通勤圏です。どんなに遠くても一時間もかかったら、都市へ着いてしまいます。ほとんど一時間以内です。東京ならまさに普通の「通勤圏」です。

ですから、もし、都市に魅力のある「働く場」があれば、周辺町村はスッポリと通勤圏に入ってしまうんですね。自宅から都市へ通勤できるようにするんですよ。

ですから、町村というのは、周辺都市の環境によって、ずいぶん違って来るのではないかと思います。問題は、町からの通勤圏に会社があるかどうかです。

◆そうしますと、拠点都市に「もっと頑張ってもらわなければならぬ」と言うことですか。

◆そうですね。そうすれば秋田は変わります。もちろん周辺町村の「自助努力」は必要ですよ。それを前提に話しているんですが。

企業は中身なんです。中身がよければ人は集まります。そこに人が働いて過疎は止まるんです。

東由利町から見れば、秋田に会社があっても過疎は止まりません。本荘市や横手市などにあれば、過疎は止まります。そんなことを思いました。

(完)

ガール

小野 良子さん(20歳)
新町・アドバンス(株)勤務



昨年の秋から、大琴にできたスポーツウェアメーカー・(株)アドバンスに勤めています。今はスキーウェアを中心に作っていますので、ぜひ皆さんにも着ていただきたいと思っています。

温泉が大好きで、つい先日とも友だちと四人でドライブを兼ねぬ湯まで行き、そのあと小安峡をまわ

ってきました。唐松温泉や須川温泉もなかなかで、私の好きな温泉の一つです。

ビデオもよく見ます。おすすめは、洋画では「ロボコップ」「ダイ・ハード」、邦画では長瀬剛の「オルゴール」です。

スキーがまったく出来ないの、ことしの冬はわが社スキーウェアを着て、スキーに挑戦してみたいなと思っています。

二十三歳くらいまでには結婚したいなと思っていますが、織田裕二(タレント)みたいな素敵な人が現われたら、即決しちゃうかも。

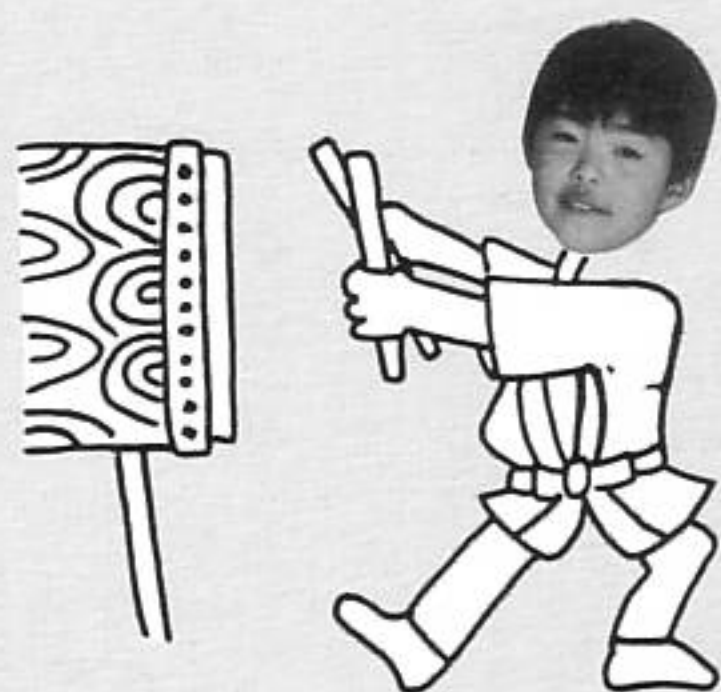
次は高橋忠広さん(杉森・22歳)にリレーします。

やった！たかせだいこ

佐藤順哉くん(高瀬小三年)

そ父母学級の発表で、たいこをたたくことになったとき、はじめは、いやだと思いました。でも練習していくうちに、だんだんおもしろくなってきました。

土曜日には、小松先生が、先生がたをよんできて、本番のようにやりました。ぼくはとてもきんちようしました。いっしょにたたいたよしのり君や、まさとも君や、つとむ君も、とてもきんちようしたようでした。一回目はうまく合わなくて、二回目にはうまくできて、



ちびっこ
ギヤラソー

作文編

ほっとしました。

日曜日にも学校に来て練習しました。いよいよ本番。ぼくたちの番が近づいてくると、とてもドキドキしてきました。みんなが、「おどりあかした。」

といったあとぼくたちは、たいこをたたきました。ぼくは、つとむ君の音が聞こえないとき、つとむ君を見ながらたたきました。なんだかあつというまにおわりました。小松先生が、百点まん点だといってくれました。おばあさんもお母さんも見に来ていて、とてもうまかったです。ぼくは、とてもうまいつか、たいこをたたいてみたい。

保健婦の

快適タイム

床ずれは予防が基本

病気やケガで、体の自由がきかないまま長期病床にしている人にとって、床ずれは大変厄介な問題です。

床ずれは、体位を変えることができないために、体の一部分に圧力がかかり、血流障害を起こして、皮膚が壊死状態になったものをいいます。一般的には、病床についてから二週間目くらいから現れる症状ですが、人によっては、数日で発症する人もあります。

症状が進むと病人の苦痛はもちろん、治療に時間がかかりますし、経済的負担も伴います。従って、対策の基本は、床ずれを起こさないよう予防に心がけることです。

予防の第一は、体位の変換。病人をおお向けに寝かせ、布団やクッションを使って、看護する人が二、三時間おきに体位を変えます。

第二は清潔。特に床ずれの起きやすいおしり、両腰、ひじなどは熱いタオルを当ててよくマッサージしてください。

このほか栄養面では、たんぱく質の豊富な食事が予防に効果があります。

(保健婦・小松友子)

東由利の文芸

ゆりかご句会(九月会続き)

鈴木要(沼)

◆夕河鹿湯治場の身を軽やかに

高橋ヒデ子(横渡)

◆妻の里泊まりて河鹿の声を聞く

佐藤正義(湯出野)

◆河鹿鳴く溪流岩場陽を洗う

遠藤トミ子(小倉)

◆夜のしじま河鹿の声を確かにす

小笠原トミ(蔵新田)

◆柚人の米とぐ溪や河鹿鳴く

鈴木徳蔵(舟木)

◆河鹿鳴く湯治場の灯のうす暗く

小笠原亮子(蔵新田)

◆汚染なき里の河鹿の音に酔う

小野貞子(蔵新田)

◆枝川の又枝川の河鹿笛

小松メサ子(下小路)

◆故郷の河鹿と童の語りくさ

小松慶次郎(高戸屋)

◆山帰り心やす夕河鹿

菊地常作(湯出野)

◆小波寄す岩に河鹿の後すさり

小松徳蔵(同)

教師のつぶやき

せんせい登場



青空に響け、君らの声

高瀬小学校・小松浩一先生

緑濃い山の稜線を、手をのばせばとどきそうな高さで、小さな雲がゆっくりと流れていく。

ここ東由利の地には、私が小さい頃に、家から勝手にノコギリを持ち出して秘密基地を作った様な山や自然があふれている。そして、そんな自然の中の幼い自分のまわりには必ず仲間がいた。共に笑い、共にしかられた友だちである。

先日、高瀬小の三年生の子どもたちは、『まつり』という群読に挑戦した。「おうい！」と空に呼びかける声が始まる、雄大な詩である。一人一人が自分の言葉を持ちなが

らも、全員の声や気持ちの一つにならねば成功しない群読。発表当日、子どもたちは緊張しつつも、三十二人の声を一つにして体育館中に響き渡らせてくれた。

子どもの孤立化が言われ始めて久しい。友だちが家に来て、一人はゲーム、一人は漫画と一人遊びしかできない子どもがふえてきているという。青空にしみこんでいく様な群読の声を思い出した。に、「子どもたちは仲間づくりあける喜びや苦しみを少しでも感じる事ができたらどうか」と自問するこの頃である。



季節の話 題

油凝固剤

最近問題になっているのが、油の後始末に使う凝固剤がひきおこす火事です。

もちろん、凝固剤自体が火事の直接の原因ではないのですが、火事につながる「うっかり」を凝固剤が誘い出しているケースが増えているというのです。

元氣印はお休みします。

凝固剤は八十度くらいに熱なると溶けないので、冷めた油の上澄みを油缶に移しかえ、残りの汚れた油を凝固剤で処理するときには、再び加熱することになります。このとき、うっかり火のそばを離れ、火事をおこしてしまうのです。凝固剤を入れて加熱する際のうっかり火事が多いのは、料理をしているのではないという気持ちで、緊張感を緩めるせいではないかと専門家は言います。

「うっかり」は自分の責任。火は、消すまで気を緩めないと肝に銘じておきましょう。

ふるさとの昔ばなし 8

若勢の歌合せ

語り・小松慶治郎さん（高戸屋）

文と絵・石渡力造



むかしむかし、主人によく仕え、陰日なたなく、せつせと働く若勢（作男）がおった。

若勢は主人の娘さんの顔を見るのが楽しみで四十の歳になるまで独身だったで。

小さい頃から若勢を可愛がってきた主人は或る日、「おまえもう四十の歳になった。そろそろ嫁さんを迎えたらどうだ」と話しかけたが、若勢は首をふり「まだいりません」のいってん張りだけ。

そこで主人は、「それでは誰を嫁さんにしたいのか」とたずねると、「実は、ご主人さまの娘さんをお願いしたいのです」と言っただ。

主人は、身のほども考えずにとあきれかえりながらも、若勢のこれまでの労苦と娘を思うひたむきさにうたれ、若勢の嫁さんにする

ことにした。

「おまえは、若勢に見染められたのだからくれてやることにした」と言ったら娘は怒ったで。

「若勢にくれてやるとは何ごとだ。よし、それでは歌合せをして私が負けたらゆくことにしよう」娘は得意げに歌を詠んだ。

「八塩の山より高く咲く花を見染めたかこの若勢」

ところが若勢の返し歌は、

「八塩の山より高く咲く花も落つれば木の葉の下となる」

娘は負けてしまったで。

一度は若勢の分ざいでと怒ったが、機転のきく若勢を見直した娘は、嫁さんになりそれはそれは幸せにくらしたんだ。

とつぴんからりん山しよの実

ふるさとを想う

30

終生の思い出：還暦祝う会

大阪府摂津市千里丘東五丁目一五五 畑山富夫さん（60歳・宮の前出身）

冬が近付いてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は昭和十九年に、今はなき秋田市八橋寺内將軍野の帝国石油株式会社に入社いたしました。当時帝国石油鉱山学校と言われていたところですが、昭和二十年終戦と同時に



閉鎖となりました。そして昭和二十三年に上阪して以来、四十二年間のサラリーマン生活を送り、現在に至っております。

いま思えば時の流れは早いもので、「もう六十歳か」と思いにふけているところです。

それはさておき、今年五月、有鄰館で「還暦を祝う会」に参加させていただきました。この会を企画していただいた方々に、この紙面を借りてお礼を申し上げます。

会では、四十二年ぶりでお会いする方々と時のたつのを忘れ、積もる話に花を咲かせました。浦島太郎ではありませんが、終生忘れることのできない思い出です。

これから健康を第一に、皆様との再会を何よりも楽しみに頑張っていきたいと思っています。

キンミズヒキ

(バラ科)

文・写真 小松忠正

69



日本のみならず、中国、シベリヤにも見られる多年草で、本町でも山林、山裾や路傍などにも多く自主して秋を彩ります。高さ50〜100センチになり、茎葉ともに毛があります。葉は大きな不ぞろいな羽状複葉で互生し、七月から九月に

かけて細い枝を数多く梢上に出して、美しい黄色の五弁花を穂状につけます。和名は黄色の花を金色に見たて、花の形をミズヒキにたとえたものといひ、種子は着物につきます。薬効もあり、下痢、口内炎に煎じて用いるといひます。

11月 (9/1~9/30)

町の三二統計

- 人口 () は前月比
 - ・男 2,836人(△4)
 - ・女 2,979人(△13)
 - ・計 5,815人(△17)
- 世帯数 1,419戸(△2)

() は1月からの累計

- 出生3人(32) ●死亡5人(47)
- 転入4人(51) ●転出18人(109)

- 火災出動……0件(2)
- 救急出動……6件(84)
- 交通事故……0件(8)
 - ・死者……0人(0)
 - ・傷者……0人(15)
- 飲酒運転……0人(2)
- 酒気帯び……0人(3)

戸籍だより

(9/21~10/20)届出・敬称略

●お誕生おめでとう

9/17 嶽石 彬亨(愛子・長男) 八日町

9/26 長沼 史賀(利子・長女) 新町

●ご結婚おめでとう

10/16 佐藤 秀俊(下通) 佐藤 真弓(新沢)

●ごめい福をお祈りいたします

10/2 畠山トクエ(88・清・母) 下通
10/7 佐藤キヨエ(78・盛一・母) 中通

善意

町社会福祉協議会に佐々木真一さん(袖山)から金一封が届けられました。
ありがとうございました。

11町民カレンダー

全国青少年健全育成強調月間

- 3・町功労者表彰式(有鄰館)
- 3~4・町産業文化祭(有鄰館他)
- 7・法内地区成人病予防学級(克雪管理センター 9時半~)
- 9・就学児健診(有鄰館14時~)
- 10~11・本荘由利地区青少年ボランティア初心者講習会(東光苑)
- 13・ことぶき大学(朋楽荘10時~)

税を知る週間

11月11日~17日

- 17~18・第6回東光苑文化祭
- 19・住吉地区成人病予防学級(住吉会館 9時半~)
- 20・健康大学(有鄰館13時~)
- 29・機能訓練教室(同)
- 10日(土)、24日(土)は役場が休みです。

マイ スケッチ

高館山からの眺め

佐々木隆義さん(大琴)



大琴のシンボル高館山。その中腹から集落を望む。黄金色に実った稲穂のジュウタンの中にたたずむ、わが大琴集落。長雨続きの中、晴れ間をみてのスケッチ。

▼NHKテレビ「ふるさとネットワーク」に今年度四回目の出演が決まりました。日時は十一月八日午後六時三十五分から約十分間(生放送)で、今回は十月二十三日に行われた「地区音楽祭」の模様と、町の偉大な音楽家・小松耕輔音楽兄弟を紹介する予定です。ぜひご覧ください。
▼月日のたつのは早いもので、今年の「広報ひがしゆり」も残すところあと一号となりました。十二月号では今年度の主な出来事と道路整備などを中心にお知らせします。▼いつもより冬の訪れが遅いと言われていますが、寒さは日増しに厳しくなってきました。脳卒中で倒れる人が多いのもこの季節です。お年寄りや血圧の高い方は、朝晩の冷え込みに、くれぐれもご注意ください。また、風邪にも気をつけましょう。

編集室から

種苗交換会の問い合わせをNTTハローダイヤル本荘22-8600でお知らせ中
本荘市で開催中の「第一三回秋田県種苗交換会」の、会場、行事・日程、公共駐車場などについて、十一月六日までNTTハローダイヤル本荘・☎二二一八六〇〇でお知らせしています。